

辻堂小学校第 1 回学校運営協議会 会議録

【第 1 回】(2026 年 6 月 2 日開催)

1. 決定事項

- **組織・人事の決定**: 会長に植木菊次委員を互選により選出、副会長に納富校長(学校長)を会長指名により選出。また、地域コーディネーターとして重田和枝委員を選任。
- **設置通知書の受理**: 令和 8 年 5 月 1 日付の藤沢市教育委員会教育長からの学校運営協議会設置通知書を受理・報告。
- **方針の承認**: 令和 8 年度の学校経営方針・グランドデザインを全会一致で承認。
- **運営ルールの確認**:
 - 会議は原則公開とし、傍聴希望者は前日までに会長へ申し出ること。
 - 会議録は委員の所属・氏名を掲載し、教育委員会への提出および学校ホームページへ公開すること。

2. 今後の取組及び検討事項

- **表記変更**: 川延委員の所属表記を「地域住民」等に変更する(事務局対応)。
- **書類提出**: 委員は事務局へ所定の書類を提出する。
- **次回準備**: 第 2 回協議会の開催場所を入りに掲示する(事務局対応)。
- **活動連携の検討**:
 - 第 2 回協議会にて、委員が校内(授業)を見学できる機会を設けることを検討(校長・事務局)。
 - 過去実施していた海岸での造形活動について、ボランティア団体「イルカ部」との連携と協力が得られることを確認(妹尾委員・兼田委員・校長)。
 - 今後の協議会において、職員との意見交換の場(グループワーク)や児童との対話の場を設ける機会を検討(校長・事務局)。

3. 協議内容の概要

- **コミュニティスクール制度の導入意義について**: 今年度から導入された本制度について事務局から説明。地域住民が「当事者」として学校運営に参画し、学校経営方針の承認などを通じて、将来の辻堂を担う子どもたちを地域ぐるみで育てるための仕組みであることを改めて共有しました。また、ボランティア活動等の実働組織である「地域学校協働本部」と、本協議会がどう連携していくかという構造についても確認を行いました。
- **学校の現状と、直近の大きな環境変化について**: 校長より現在の学校の様子が伝えられました。児童数は 1,224 名、39 学級と大規模校であり、多様な支援体制を整えているものの、深刻な教室不足から「図工室を普通教室に転用せざるを得ない」という苦肉の現状が共有されました。さらに、令和 8 年 10 月から約 5 年間にわたる校舎の建て替え工事が始ま

るという大きなトピックが報告されました。工事期間中はグラウンドが使えなくなるため、近隣の浜見小学校のグラウンドや、八部公園を代替地として活用していく方向で調整が進められています。

- **辻堂小学校の歴史と「地域に支えられてきた教育」**：昭和 20 年 5 月の開校当時、地域住民が土地を出し合い、机や椅子を持ち寄って学校を作り上げたという深い歴史が共有されました。この伝統を踏まえ、今年度の学校教育目標「すなおで、かしこく、たのめしく」や、目指す学校像「心豊かに共に学び合う学校」が提示されました。教育課程の特徴として、先生たちが一人で問題を抱え込まない「同僚性」を重視する組織文化づくりや、地域の人材・資源を取り入れた「辻堂ならではの体験型授業(カリキュラム開発)」を校内研究のテーマとして進めていく方針が詳しく語られました。なお、今年度の運動会は、地域とも連携しながら八部公園の野球場(スタジアム)を借りて開催する計画です。

4. 委員・参加者からの主な意見・提案

- **地域・保護者の学校参加**：地域の方が直接子供に教える授業、親子・教員参加型の「ふれあい活動」の復活、校内清掃・草刈りや父親の学校参加促進などが提案された。
- **学校運営への協力**：海・サーフィン関係のネットワークを活用した人材提供や救急法講習会の講師紹介への協力姿勢が示された。
- **地域愛の醸成**：地域への愛着を育む教育の重要性が語られ、昨年度の 3 年生による総合学習(地域・自治会調べ)の成果が高く評価された。